

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600203		
法人名	有限会社 つどい		
事業所名	グループホーム つどい		
所在地	〒024-0034 北上市諏訪町1丁目3-17		
自己評価作成日	令和6年8月26日	評価結果市町村受理日	令和6年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して今年の11月で11年目を迎えます。今年、開設以来初めてとなる百歳を迎えるご利用者様がいらっしゃるのですが、開設当初からご利用されているご利用者様ですので家族同然。今から職員皆でお祝いの会をどのように盛り上げようかと楽しみにしているところでございます。施設運営に関しましては、訪問看護、訪問診療とご利用者様の健康状態を定期的に情報を共有しながら診て頂き、ご家族様からも感謝のお言葉を頂くこともございます。近隣の皆様との関係につきましては、運営推進委員として参加して頂いておりますし、さらに感染対策、身体拘束、虐待を防止の為の対策等の委員会の委員まで兼務して頂き、地域の皆さんと一緒に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地の中心地に位置する1ユニットの事業所で、近くの系列ホームは、運営推進会議の会場として連携して活用している。道路向かいの系列デイサービスからは、ドライブ時にワゴン車を借用するなどの協力も得ている。近隣には、こども園、百貨店を含めた商店街や飲食店、医療機関が多数点在し、社会資源に恵まれた環境下にある。特に在宅支援の医療機関に恵まれていることもあり、看取り対応をきめ細やかに行っている。訪問看護ステーションの看護師は、週1回の頻度で利用者の健康管理を担うだけでなく、運営推進会議の委員にも委嘱している。丁寧に作成された介護計画のもと、三度の食事手作り彩りよく提供され、日曜日には普段外出が少ない利用者を優先し、四季折々の自然を楽しみながら諏訪神社の散歩や、和菓子店での買い物で外出を促す工夫をしている。地域関係者と非常時の協力体制や日頃の交流を拡げており、事業所力の向上が今後益々期待できる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月16日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会〕

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの「寄り添う気持ちを大切に 心で繋がる思いやりのケア」という理念に加え、3年前よりサブタイトルとして「笑顔で思いやりのあるお声がけ」と2本柱でホールの目につくところに大きく貼りつけ、毎朝出勤と共にタイトルを確認し実践に繋げております。	理念は大きな文字で、玄関から見える梁に掲示され、職員のみならず来客者にも周知効果が高い。サブタイトルは、新人職員の提案をきっかけに、職員全員で考案した。同時期に利用者への声がけに課題があったが、その後改善してきている。職員の急な欠勤時に自主的に代替りの出勤申出があったり、新規の入居に当たっては、緊急性や困難事例とされる方を優先するなど、利用者に寄り添うケアが、職員全体に浸透している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩のすれ違いでの挨拶、近隣の商店での買い物時に声をかけて頂いたり、祭りの際、見物参加に声をかけて頂いたり地域の一員として地域の皆様の協力の元、交流を図っております。	地域の一員として自治会に加入し、市の広報紙が届きイベントなどの確認ができている。両隣にある諏訪神社や一般住宅との関係も良好である。コロナ禍を経て以前の様な取り組みは十分に行えないが、春と秋に開催されるお祭りの縄張りには、地域の方々と一緒に行っている。5類変更後、唄、踊り、鬼剣舞など複数のボランティア団体を受入れ、利用者は職員と一緒に楽しい時間を過ごしている。子ども園の園児たちがお散歩で通りかかると窓を開けて手を振るなど、利用者が満面の笑みを浮かべる日が秋口になって増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には年に2回発行しているつどい便りを配布する事で、認知症への理解を促しております。また、買い物等でその場にそぐわない言葉を発した時にでも、ご理解頂いて温かい言葉をかけて下さる事もしばしばです。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での場を利用して、利用者様へのサービス報告、身体拘束への取組、感染症対策、虐待の防止のための対策等報告し、医療機関、推進委員の皆様、ご家族様と意見交換しサービス向上に活かしております。	運営推進会議は、近隣にある系列のグループホームで開催している。コロナ禍でのクラスター発生時には、委員をお願いしている訪問看護ステーションの看護師からの助言が大いに役立ち、空気清浄機の増設に繋がっている。お隣りに住む委員からは、非常時に自宅を開放した一時受入れや緊急連絡者の登録の協力もいただいている。民生委員の委員委嘱については、打診しているものの実現していない。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月に1回の運営推進会議では、必ず顔を合わせている為、その際にアドバイスを頂いたり、質問があればお聞きするなどして協力体制を気付いております。	FAX対応が可能な場合でも、事故報告などできるだけ市の窓口に出向き、報告に併せてアドバイスを得るなどして協力関係の構築に努めている。実地指導は4年に1度の間隔で実施され、実務上のアドバイスをいただいている。地域包括支援センターからは、空き情報の確認がしばしば入っている。行政関係の運営推進会議の委員は、市役所と地域包括支援センターの職員が1年おきに交代している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内で身体拘束廃止への取組について研修を定期的に行い話し合いを設けております。令和4年度でも報告しておりますが、昨年迄、利用者様へつなぎ服を使用するなどの一時的な拘束がありました。命に係わる代替えの効かない拘束であり、主治医からの意見、ご家族様からの承諾を経て書面で取り交わすなど慎重に行いました。	委員会は、運営推進会議委員に委員を委嘱し、毎回の会議時に報告と検討を行っている。職員の研修計画は年4回計画的に行なっている。看取りまで対応することが事業所の基本方針であり、高齢化し医療依存度の高い利用者が多く、状態によっては身体拘束が止むを得ない事例も経験している。管理者は、理念のサブタイトル作成後、気になる言葉かけは無くなってきているとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度より、虐待防止のための対策を検討する委員会を立ち上げ、指針を整備しました。施設独自の医療機関への報告書を作成し、利用者様の異変に早期に気付くことが出来る体制を整えております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、グループホームご利用者様において該当者がおらず、学ぶ機会を意識しておりませんでした。近年の高齢化社会において、知識として知る必要性を感じ10月20日に市で行われる、市民向けの成年後見人制度後援会に参加する予定でおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、ご利用者様、ご家族様に不安や疑問を取り除いて頂ける様な説明を心がけておりますし、質問に答えられる時間を十分に取、ご理解又は、納得して頂ける様に努めております。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際に施設に対してのご意見、ご要望について、事業所の窓口(管理者)をお話し、それでも言いにくい事などあればと、外部のへの窓口も合わせてお知らせしております。	居住地が市内、遠隔地に拘わらず、多くのご家族は月1回程度は面会に来所している。運営推進会議には、全家族に開催案内を出し、欠席のご家族には後日会議録を添えて資料を送付している。出席の家族からは、緊急時の避難路の狭さを懸念する意見が出されている。入居までに3回面接を行い、丁寧に意向把握しながら不安解消にも努め、入居後は毎月居室担当者が、写真入りのお知らせを送っているほか、「つどいだより」を年2回発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の人数も少なく、勤務年数も長いいため普段より意見、提案については話し合いが出来る環境下にあります。職員からの意見をまとめ代表者に報告し反映して頂ける様努めております。	職員個人の要望や、大がかりな修繕や備品購入の必要性は、管理者が事業所代表者に伝えているが、最近では系列事業所にいる代表者代理経由となっている。管理者や介護支援専門員にも夜勤があり、その機会もコミュニケーションを図っている。暑さ対策として、居室へのエアコン設置の提案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に不満は感じていると思います。代表者からの御理解が得られない状況ですが、職員間の良好なコミュニケーションに甘え、理解して頂いている事に感謝しかありません。施設内で対応できる労働環境について出来るだけ個々の事情に添うことが出来る様、努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	限られた人員での勤務体制が数年続いている。法人外の研修難しい状況はまだ改善に至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の交流のみ。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、ご家族様や入居前の担当ケアマネさんからの情報を踏まえ、サービス導入する前に、ご利用者様とのカンファレンスにおいて、現在抱える不安、意向を傾聴し、サービスを受け入れて頂ける様話し合いを重ね、信頼関係が築ける様努めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談からサービスを実際に導入するまでに、数回のカンファレンスを重ね、家族様が抱える不安、施設に対しての要望を傾聴し、施設にご家族様を託す不安を取り除いて差し上げれるような会話を心がけ、信頼関係を築ける様努めております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の双方と話し合いを共有し、現在最優先すべき課題を見極め、検討し、支援できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どの職員にも言えるのですが、ご利用者様と接する対応が、介護をする、される仕事という枠を超え、友人、お嫁様、娘、孫の様に接している場面をよく目にします。だからといって年長者への配慮する心がけは決して忘れない関係性を築いております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	引き続き感染症対策をとりながら、施設での面会、外出できるよう対応しております。いつまでもご家族様を忘れない様に離れて暮らされても、家族の絆を繋ぐ支援を継続しております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	利用者様ご家族様以外の方々との交流は少ないようです。友人、知人も高齢になり、それぞれご事情があるように思います。	入居してからの年月も長くなってきており、利用者の高齢化のみならず、馴染みの知人友人なども高齢化しているためか、家族以外との交流は年々減少している。遠隔地に住むご家族が3組あり、月1回から隔月の頻度で面会に来所している。2ヵ月に1回美容師資格のある元職員、月2回来所する訪問診療の医師、毎週来所する看護師が馴染みとなっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士の関係性は配慮しつつ、意思表示の少ないご利用者様には職員が間を取り持ち孤立する事が無いよう、支え合えるような関係を作るべく努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られたり、看取りを経て退所されたりとサービス利用が終了しましても、新たなご利用者様を紹介して下さったり、タオルの提供など交流は続いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様、お一人、お一人の性格、病歴に対応し、日々のコミュニケーションに活かしております。コミュニケーションが困難な場合でも、ご本人様、ご家族様よりお力をお借りして希望に沿えるよう対応しております。	その時々での精神状態のため意向を伝えることが難しい利用者は数名いるものの、職員とのやり取りは可能である。入居時に把握した生活歴や意向に加え、日頃の会話で確認できた新しい情報は、個別の申し送りノートに記載して職員全員で共有し、家族にも確認している。食事の嗜好や買い物先での希望などには柔軟に対応しているが、寝る直前の入浴希望は体制的に難しく叶えていない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、在宅時の様子を伺ったり、利用者様から直接お話を伺ったりして得た情報を職員間で共有し、ケアプランに反映し、サービス提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	在宅時と比べ、施設での生活は施設でのタイムスケジュールのなかで過ごされております。在宅時のような好きな時間に好きな事が出来るというわけにはいきません。心身状態の変化の気づき、新たに発見した有する能力など気付いたことはケア記録に残し、口頭でも伝え、職員皆が把握できる体制を継続して支援しております。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議のみならず、ご家族様とのご面会時、週1回の訪問看護、月に2回の訪問診療の際に意見、アドバイスを頂戴し、反映したものを取り入れ介護計画を作成しております。	入居直後の暫定介護計画の期間は1ヵ月とし、その後の見直しは3ヵ月毎に行っている。見直し前のモニタリングは、介護支援専門員が担当して独自のアセスメント表で行い、職員会議で意見交換している。コロナ禍前は主治医、看護師なども参加してサービス担当者会議を開催していたが、関係者の参集が困難となり、計画作成前に意見を伺っている。利用者と家族の希望や意見は、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様毎、個別にモニタリング表を作成し、毎日チェックして職員間で達成状況を共有しております。職員会議でモニタリング表を用いて話し合い、サービス担当者会議の場で情報を共有し、介護計画の見直し、次回の計画に反映し活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常の会話の中で耳にした希望やご家族様からの要望が既存のサービスには無くとも、施設職員やグループ施設の協力を経て柔軟な支援が提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆さんからの情報提供により、祭りへの参加、定期的にボランティア団体の皆さんによる余興、近所の散歩などを通じ、日々の暮らしに楽しみを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院が困難なご利用者様は訪問診療、歩行が可能でご家族様の協力得られるご利用者様は外来受診されております。それぞれのかかりつけ医の医師へ、受診日前に情報提供を書面で報告し、適切に医療を受けられるよう支援している。	3名の利用者は、入居後も今までのかかりつけ医の受診を希望し、家族対応で通院している。その際には介護支援専門員が作成した「主治医・ケアマネ連絡票」を持参している。家族が遠隔地に住んでいたり、加齢による状態の低下で外来受診が困難になった6名の利用者は、月2回の訪問診療に切り替えている。義歯の不具合などの歯科治療は、訪問歯科診療で対応している。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護と提携している。訪問日早朝に状態報告をし、見て頂いております。また、程度にかかわらず事故報告はその都度行い、対応の指示を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はご家族様に同行したり、ご家族様に代わってご利用者様に付き添い医療機関に対して、状態説明を果たしております。退院時も、ご家族様と共に退院時カンファレンスに参加し医療機関と連携し施設に戻られてからの医療指示に対応しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約を交わす段階で、重度化した場合、終末期のお考えをお聞きした上で、事業所で出来る事、出来ない事を説明しながら当施設の方針をご理解頂き共有している。また、地域医療連携も視野に入れたお話も契約時にお伝えしている。	事業所理念にある「寄り添うケア」に沿って、入居から終末期、看取りまで利用者の希望に沿った対応を基本としている。訪問診療医は24時間対応が可能であり、提携している訪問看護ステーションは、週1回看護師が来訪し健康管理を行っている。看取りに当たっては、医療スタッフとのサービス担当者会議を行っていたが、コロナ禍が暫く続いたため、看取り後に職員でカンファレンスを実施し、その結果を医療側と家族に文書で報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	介護で出来る範囲の応急処置はマニュアルを作成し、急変時の対応が出来る様にしている。また、施設での対応できる範囲を超えた状態変化が認められる利用者様にはどのように対応すべきか看護師に伺い、口頭、記録や個別ノート、ホワイトボードを用いて職員間で情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は隣近所様にもお声がけし、協力参加頂いている。	年2回の避難訓練は、6月に火災想定訓練を実施し、11月にはAED訓練後に消防署立会いの下で夜間想定訓練を計画している。目標達成計画に掲げた緊急連絡網の作成には、協力の得られた運営推進会議委員も登載され、冬季や雨天には、非常時の避難先として隣宅での受け入れ体制も出来ている。ハザードマップ上の危険は無く、火災発生時の非常口からの円滑な避難や夜間想定訓練の重要性を管理者は認識している。	新たな緊急連絡網を実際に活かせるような伝達訓練や、隣宅へのミニ避難訓練、夜間帯を想定した伝達と避難訓練、春夏秋冬の環境下での避難訓練など、近隣住民にも協力をいただきながら計画的に実践していくことを期待します。

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム つどい

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念のサブタイトルにもある「笑顔で思いやりのあるお声がけ」で、お一人お一人を尊重し、自尊心を傷つけないお声がけで接することが出来る様心がけております。	利用者一人一人の生活歴とプライドに配慮した声がけを行なっている。排泄の失敗時には手早く対応したり、小声で他の利用者に聞こえないようにしている。入浴介助時は、脱衣所で利用者同士が鉢合わせしないように、終了するまで1人ずつ対応している。個人情報保護のため、全職員が誓約書を提出している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のあらゆる場面で自己決定を促したり、迷いが見られるようなときは、職員と共に考え、最終決定が出来るような支援を心がけている。(具体的には誕生日月のケーキの種類、ソファの座る位置等)			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での大まかなタイムスケジュールあるも、一人ひとりのこだわりや、ペースを理解し希望に沿えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えの組み合わせを伺ったり、2か月に1回の訪問美容院など清潔保持、身だしなみ、おしゃれへの関心が失われないよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は専門の職員が行っている。食器拭きは係のご利用者様にお任せ、ご家族様やご本人様からお聞きした嗜好をもとに施設内で手作りで提供している。	献立は代表者が毎月作成し、彩りにも配慮しながら三食とも手作りの料理を提供している。季節の行事食として、雛祭りのちらし寿司、土用の鰻、年末の蕎麦や年始のお節のほか、郷土食として芋の子汁も提供している。誕生日には利用者に好みを確認し、好みのショートケーキを提供している。利用者は食後の食器拭きなどを手伝っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食のご飯の量は、体重や体調に合わせて提供。一人ひとりの体調に合わせて、刻んでみたり、ペースト状にしたり、だれもが全量召し上がれるよう対応している。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯のお手入れが出来ない、歯磨きが出来ない利用者様には、それぞれ職員が支援しています。ご自身でお手入れ可能な利用者様については傍で見守り、清潔保持に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用の時間を夜間のみと限定したり、それぞれの排泄パターンを把握し、時間を決めてのトイレ誘導で自立された排泄支援の提供を実施している。	トイレまでの歩行や、トイレ座面への腰掛と立ち上がりができるうちは、出来るだけトイレで自立した排泄が出来るよう心掛けて支援している。排泄チェック表を活用して適宜声掛け誘導を行っている。1名の利用者が夜間居室でポータブルトイレを使用している。3名の利用者が夜間にオムツを使用しているが、定時の交換以外は睡眠を優先している。4部屋にはトイレが設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の適度な運動、水分摂取量の把握、毎朝の乳製品の提供、食物繊維を取り入れた食事の提供で便秘予防に取り組んでいる。さらに、排便のリズムを把握し、2日に1度は確認できるよう、医師と連携し服薬調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全面を考慮し、職員の人員配分の厚い時間帯である午後に設けている。入浴は週3回、機械浴利用者様と、一般浴の利用者様とで分けている。浴室、脱衣場で男女居合わせることがないよう、個々に合わせて支援している。	入浴は週3回午後に行い、季節の柚子湯を提供したり、バラの花が手に入った時はバラの花びらを風呂に浮かべる工夫もしている。長湯や好みの温度なども調整し、利用者に合せた対応を心がけている。浴室には2人でもゆったり入れる一般浴槽と機械浴槽があり、身体機能が低下している利用者3名も安心して入浴できている。職員と1対1になることにより、普段はしないような昔話などが聞けるコミュニケーションの機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動時間を増やし、夜は十分に休んで頂ける様な環境づくりを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りノートでご利用者様の服薬変更、副作用、用法など記入し、情報を共有。処方箋は個人ファイルに綴じ込みいつでも閲覧可能にしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事を大切に、節物を提供したり、個別に利用者様の嗜好品を把握し、3食の食事の中で提供したり、外食に同行したり、お誕生日月には好みのケーキを提供するなど状況に応じて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の心身状態に対応しての散歩や気分転換を図る為にお買い物、ドライブなどの支援に努めている。施設側で対応出来ないときは、ご家族様方にも協力を頂いている。	散歩を日課としている利用者も1名いるが、入浴提供の無い日曜日を散歩の日として、車椅子利用者や普段外出機会の少ない利用者を優先して、隣接の諏訪神社まで1人ずつ散歩に出かけ、その際にはお小遣いを持参し、コンビニエンスストアや和菓子屋に立ち寄って、おやつを購入することも楽しみになっている。系列のデイサービスより車両を借り、春には花見、秋には紅葉狩りに全員で出かけている。主治医への定期受診時にご家族と外食する利用者が2名ある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをご家族様よりお預りし、施設事務所の個別金庫で管理している。買い物に同行し、好きなものを購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の使用はご家族様の方で制限されております。施設の電話使用はお断りさせて頂いております。ご家族様より電話頂いた際には取り次いで会話出来る様支援、手紙は家族様から、定期的に送られてくる利用者様が数名いらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった展示物や飾りの他、建物中央部に台所が設置されていて、調理職員が調理している風景をいつも目にされております。特別な事ではありませんが、家庭的な雰囲気づくりに一役買っているように思います。	居室に隣接して共用空間である食堂とホールになっている。施設は市道に面しているものの、騒音は少なく採光も良い。縦長のホールは開放的で、中央の壁に配置されたテレビに対し、ソファが横長に置かれ開放感がある。入口近くには機能訓練用の運動器具や丸テーブルがあり、集合型のホールから離れて、自身のトレーニングや独りでくつろげるスペースも確保されている。ホール中央の台所はオープンになっており、職員が調理している様子や美味しそうな料理の匂いが漂ってくるなど家庭的な雰囲気になっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム つどい

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファが設置してありますが、自然と座る位置は決まっております。トラブルなく過ごされております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご自宅で愛用されたものをお持ちくださるようお話ししている。出来るだけ馴染みのあるものを使用する事により、ご自宅を変わらない環境づくりに努めている。	馴染みの愛用品持参については、重要事項説明書にも記載され、特に湯呑茶碗や箸は使い慣れた物を持参するよう勧めている。居室には、ベッド、寝具、床頭台、クローゼット、洗面台が備えつけてあり、トイレのある居室が4室ある。クローゼット脇には開閉式の棚があり、位牌やテレビが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるスペースの確保、居室の扉に記名のシールを貼付したり、トイレが解るように表示したり一人ひとりが出来る事、わかる事を活かして自立した生活が送れるよう支援している。		